
聖条学園

志輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

聖条学園

【Nコード】

N7647V

【作者名】

志輝

【あらすじ】

聖条学園。

そこは「リペア」という特別な力をもった人を育てる学校。主人公の「神崎 志輝」は、そこでいろんな人と出会い、学んで、成長していく。

聖条学園　　プロローグ　　(?)

私の名前は「神崎　志輝」（かんざき　しき）10歳です。

住んでいる所は、山奥の小さな村で学校もなくて、みんな自由に暮らしていたんだけど、、、。

ある日一通の手紙が届いて、それと同時に村にいた私以外の子供、3人が居なくなってしまった。

村の人たちで必死に探したけど、何処にもいなくて、、、。

それから私は皆が無事かどうか心配で、、、。

それから一ヶ月が過ぎた頃に、一通の手紙が届いた。内容は、、、

『急にいなくなってごめん。でもまだ村には帰れそうにありません。俺達は「聖条学園」という学校にいます。あ、あと志輝へ。

心配すんな（・ω・＊）生きてるよ』

、、、たったそれだけの手紙だったけど皆が無事だと分かってホッとした。

だけどそれから半年経っても一年経っても手紙が一通もこなくて。

私は皆が居る『聖条学園』というところに行ってみることにした。

聖条学園 〰プロローグ〰 (?) (後書き)

はじめての投稿です。

楽しんで見ていただけたら嬉しいです。

聖条学園に行こう (01)

私の両親は小さいときに亡くなっていて、今は16歳の兄と二人暮らしをしています。

兄の名前は「神崎 志音」(かんざき しおん)。アイドルの仕事をやっているらしいです。
よく知らないけど。

勢いよく階段を駆け上がり兄の部屋の前に立ちノックする。

「入っていい？」

「んー？ ああ」

ガチャ

「何のようだ？」

「あ、、、えっと、、、お願いがあるんだけど、、、」

「なんだ？ 言ってみろ」

そう言って机の上のペットボトルをとり、コーラを飲む兄。

「せ、、、聖条学園につれて行って!!」

ゴホッ ガハッ

兄は盛大にむせました。

「え!?! 大丈夫!?!」

「何を言うかと思えば、、、。何で行きたいんだ?」

「、、、皆が心配だから」

「そうか、、、」

兄は一息してペットボトルを机に置いた。

「ねえ、行っている?」

「だめだ」

即答された。

「何で！？ 志い兄はみんなが心配じゃないの！？」

「、、、心配すんなって手紙に書いてあったんだろ？ なら大丈夫って事じゃないのか？」

「そ、それはー」

「そんなにあいつらの事が信用出来ないって事か？ あとその志い兄ってのもやめろよ」

そういつて兄は私を部屋の外へと追い出した。

「もう聖条学園に行きたいなんていうなよー」

「、、、うん。」

バタンッ

「、、、なーんて」

私は自分の部屋に戻ると貯金箱に目をやった。

「私はそんなことじゃあきらめない！！ あきらめたらそこで終わりだからねッ」

十一十一十一十一夜ー十一十一十一十一十

今日、志い兄は仕事でおそいつて言ってたし、、。行くなら今しかないっ。

ガチャ

「、、、行ってきましたーす、っと」

誰もいない家に向かって言う。

「、、今ならまだ電車あるから急ごう」

足早に駅へと向かう。

「え、、と、、あ、あった！」

時刻表を確認すると、まだ三十分ちかく時間があつた。

「んー、何しようかなー」

そんなことを考えてると

「ちよっと良いかな？」

「はい？」

10代、いや、20代くらいのお兄さんに声をかけられた。

「聖条学園までの道って分かる？」

「え、あ、はいっ！分かります」

「どうやって行くの？」

「あ、私も今から行くので一緒に行きませんか？」

「え、何か用事でもあるの？」

お兄さんは不思議そうに訪ねてくる。

「はい。友達が、その学校にいるらしいのであいに行こうと、」

「、、。へへえ、友達思いなんだね」

「、、？」

一瞬、困った顔をしたように見えたけど、。気のせいかな。

「それで？その友達の名前は？」

「え、と、。『結崎 志乃』と『崎嶽 冬馬』と、、

「おい。お前」

聖条学園に行こう (01) (後書き)

中途半端な終りかたでスミマセン。

え、何これ。魔法！？　　く03く

そういってお兄さんの頭をガシッとつかむ誰か。

あ、顔見れた、、、あぁ！！？！

ばつと顔を俯かせる。

この人、、志い兄だぁ！！

「やだなぁ？せつかくのかっこいい顔が台無しに、

「おれは真面目に聞いている。お前、、校長室の窓ガラスなんか割ってないだろ。割ったのは生徒。そうだよなぁ？」

何言ってるんだかさっぱりだけど、これだけはいえる。今捕まったらヤバイ。どうしよう！？。

「やだなぁ？志音先生？僕が割ったって言ってるでしょ？そんなに信用出来ないの？」

「当たり前だ。・・・？・・・その子供、なんだ？」

まずいっ、、ばれるッ！

「あ、あぁ、この子は聖条学園まで案内してくれるっていうー・・・

・

「失礼しますッ」

勢いよく走り出す私。

「ちよ、まてお前、、！？まて、今の声、、まさか！！」

・・・ばれたかな。

「てめえ、、志輝かッ！！」

ばれたー！！

「ち、ちがいますッ私は・・・

グイッ

「わっ」

「つかまえたぁ」『黒笑』

そう言っていると志い兄は怒鳴り出す。

「何でこんな時間に外に出るんだっ危ないだろーが！！」

「・・・え？」

思っていたこととは違うことを言われて拍子拔ける。

「九時半だぞ！？子供が出歩いてて良い時間じゃ、、、

ガタン　ゴトン　ガタン　ゴトン

「あ、電車が、、」

何とか手を振りほどこうと試みる

「はなしてっ」

「はなすかよ、、、だいたい昼間で納得したんじゃないのか!？」

あ、、電車が行っちゃう、、

「はなしてッ!!」

私が強く言い放った瞬間。

気がついたら電車の中にいた。

「え、、、？」

声を上げたのは、私と志い兄。あとお兄さんも。

「なにこれ、、」

「志輝、、お前、、」

「、、、、!!もしかして、この子、、」

え、何これ。魔法！？
〽〇〽 (後書き)

また中途半端です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7647v/>

聖条学園

2011年10月9日13時14分発行